

令和4年度

「運営に関する計画」 (中間反省)

大阪市立大和川中学校
令和4年11月

大阪市立 大和川中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、今年度創立 50 周年を迎える学校である。数年前に学校の秩序が乱れ、大きな学校崩壊を経験した。学校再建として大阪市教育振興計画の第 1 ステージ（平成 25 年度から 28 年度）の 27 年度より「秩序構築」をテーマに「時間を守る、ルールを守る心の育成」を進めた。新たに学校行事の取り組みとして 1 年生入学時に宿泊オリエンテーションを取り入れ「時を守り、場を清め、礼を正す」を指導の柱として教職員一丸となって進めてきた。その結果、年々生徒の規範・規律意識も高まり、生徒は安定した状況で学校生活や落ち着いた授業を取り戻すことができている。取り組みから 8 カ年を経て、学校が安心して安全に生活できる学校へと大きく変わることができた。現在は、大和川中学校の教育活動の柱として取り組みを継続している。

生徒アンケートの「学校のきまり・規則を守っていますか」（96%）と指導がしっかりと浸透してきた。しかし、将来の夢や希望についての目標設定について「将来の夢や目標を持っていますか。」（69%）と低い。また、学習習慣についても「自分で計画を立てて勉強をしていますか」（64%）で、家庭での学習習慣の定着していない生徒が多く、基礎学力の向上までには、今一歩及んでいない。29 年度から取り組んだ第 2 ステージ（平成 29 年度から平成 32 年度）では、各教科で教育 I C T を活用した授業づくりを始めた。令和 2 年度は、情報教育全国大会大阪大会の研究発表校として 3 年間取り組んできた教育活動を発表した。

大和川中学校が「安全で安心して集団生活を送ることができる」最高の学びの場を構築する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85% 以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を令和 3 年度より 90% 以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和 3 年度から 5 ポイント増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている自分には良いところがありますか」に対して、肯定的な回答をする割合を 90% 以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80% 以上にする。

○令和7年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答をする割合を70%以上にする。

○規則正しい生活を身につけている児童生徒の割合（校内調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日同じくらいの時間に早寝・早起きしていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和7年度調査において、70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応のため、また、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、毎日の学習者用端末使用率を令和7年度末において95%にする。

○令和7年度において「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を98%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を55%以上にする。

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を50%以上にする。

学校園の年度目標

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

○学習者用端末を活用した家庭学習を週3回実施する。
○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。

学校園の年度目標

○学習用端末を活用した家庭学習を週3回以上実施する。

3、本年度の自己評価結果の総括

大阪市立大和川中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を98%以上にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ・差別を許さない学校づくり。人権学習の年間計画を立て計画的に実践する。</p> <p>いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に行うと共に、生徒ボードの活用を高め一人ひとりの生徒情報・心の天気を把握し、共通理解を深め、適切な指導を進める。</p> <p>指標 : いじめアンケートを年3回実施する。生徒教育相談・保護者懇談を各学期に実施し、いじめの正体の学習を系統的に取り組む。いじめアンケートの検証。</p> <p>令和4年度末の校内調査において、学校が認知したいじめについては、解消に向けての対応率を100%にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を進める。新たに不登校になる生徒をうまない、学級・学年集団づくりを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行う。</p> <p>指標 : 校内調査における「学校に行くのが楽しい」の項目の肯定的な回答を令和3年度より5ポイント向上させる。主任会・職員会議・運営の計画等での生徒情報共有。保護者・関係機関との連携。SSWを中心としたケース会議。不登校対策委員会（年3回以上）行う。</p>	B

<p>取組内容③【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>年間指導計画にそって、防災・減災に関する授業（講話、説明、地域防災訓練への参加）や「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。学校保健委員会での防災学習の継続。</p> <p>指標：火災想定と地震想定の避難訓練をそれぞれ年1回、救急救命法（AEDを含む）の講習を各学年、年間2時間以上実施する。学校保健委員会を中心に生徒活動を進める。住吉区地域防災訓練に全校生徒で参加する。</p>	B
<p>取組内容④【施策2 豊かな心の育成】</p> <p>全ての教育活動を通して、「あいさつがしっかりできる、人の立場にたって考え方行動できる」人づくりを進める。年間35時間の道徳の時間を大切に活用する。読み物資料等を活用し、道徳授業づくりを進める。インクルーシブル教育を進める。</p> <p>指標：校内調査の「人の役に立つ人間になりたい」80%以上、「家庭や学校、地域ですすんであいさつをしている」95%以上にする。道徳の時間、読み物資料を活用した授業等を行い、年次研修教員を中心に公開授業を行う。支援学級在籍生徒を含む支援を要する生徒の状況把握を行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策2 豊かな心の育成】</p> <p>社会体験（キャリア教育、職業講話、ボランティア活動等）実施し、自分の将来を考えるよう指導する。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行う。</p> <p>指標：職業講話（1年）、職業体験（2年）、高校出前授業体験（3年）、またボランティア清掃（年1回以上）を実施する。</p>	B

年度目標や取組の進捗状況と分析	
取組内容①【施策1】	
いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に実施することができた。いじめアンケートはICTを活用し、月に1回行っている。生徒教育相談、保護者懇談では、生徒一人ひとりの実態把握、情報共有に努めている。	
取組内容②【施策1】	
宿泊オリエンテーションを予定通り実施することができた。宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を行っている。また、校内での情報共有、状況に応じて関係機関、ケース会議を定期的に実施することで、きめ細かい生徒指導に努めた。	
取組内容③【施策1】	
定期的に校内での防災訓練（地震・火災想定）を実施した。また、地域と連携し、住吉区の総合防災訓練に参加することができた。	
取組内容④【施策2】	
学校生活を通して、他者を意識し、あいさつ活動を大切にした教育活動を行うことに努めた。道徳授業では、読み物資料を活用し多面的に思考できる授業を行っている。7月には授業力向上のための研究授業・研究協議も行った。チャレンジルームの先生方を中心に要支援生徒の状況把握にも努めた。	
取組内容⑤【施策2】	
1年は1月に職業講話を実施予定である。2年は7月に職業講話を実施し、12月には職業体験を実	

施予定である。3年は7月に高校出前授業体験を実施した。1,2年合同で5月に地域清掃を実施し、11月にも実施予定である。また、3年を中心に、進路の手引きの作成、進路説明会や進路学習、説明会の案内など進路選択への情報提供をきめ細かく行っている。

下半期・次年度への改善点

取組内容①【施策1】

生徒一人ひとりの情報を把握し、適切な指導を行うためにも、生徒ボードの活用に関しては、今後も活用を行い教職員での共通理解を深めていく必要がある。いじめについて学校が認知すること、解消に向けての対応を徹底していく。

取組内容②【施策1】

不登校生徒に対しては、チャレンジルームとも連携していく。状況に応じて外部との関係諸機関とも連携し、ケース会議等を定期的に実施していく必要がある。

取組内容③【施策1】

学校と地域の連携、地域と家庭が協力することで、総合防災訓練の内容をより深めることができる。今後も、生徒の防災に対する意識を高めていき、地域の防災活動につなげていく必要がある。

取組内容④【施策2】

校内調査において、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に答えた生徒が97.0%、「家庭や学校、地域ですすんでいさつをしている」と肯定的に答えた生徒が86.5%であった。目標達成できている項目もあるが、子どもたちが自発的に行動できるよう、日々の教育活動を行っていく。

取組内容⑤【施策2】

昨年度実施できなかった活動も含め、上半期については各学年で計画通り実施できた。今後コロナの感染状況によっては急な予定変更も考えられるが、できる限り社会体験や進路決定に向けての活動ができるよう柔軟に対応していきたい。

大阪市立大和川中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を55%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を50%以上にする。</p>	B
<p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする</p>	進捗状況
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	B
<p>取組内容①【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>5教科で単元テスト・小テストを実施する。A I ドリルの活用や学習の振り返りを早く短い期間で行う事で、早期問題解決につなげる。個別の学習支援を放課後や長期休業中などの生徒自主学習時間を設定し、生徒の自主学習を支援する。</p> <p>指標：中間テストを廃止し、小テスト・単元テストを実施する。きめ細かな個別学習支援を行う。放課後の教員による学習サポートを各学年15回以上実施。</p>	C
<p>取組内容②【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】国語・数学・英語における個に応じた学習内容および習熟度別授業等を行う。(習熟度レベル上位層の更なる伸長および、下位層の引き上げにむけた取り組みを行う。)</p> <p>指標：校内調査における「授業はよくわかる」「先生に質問しやすい」の肯定的な回答を80%以上にする。</p>	

取組内容③【施策5 健やかな体の育成】

令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計点を令和3年度より1ポイント向上させる。

指標：体育の授業で（TT）切磋琢磨できるグループ学習を行う。また、個別の支援学習でタブレットによる動画での視覚的効果で動作確認をする。グループで毎時間授業の振り返りを行う。

年度目標や取組の進捗状況と分析**取組内容①【施策4】**

単元テストだけでなく単元のまとめを振り返る到達度テストを設定し、生徒が自らの学習を振り返り改善することができるようになっている。

取組内容②【施策4】

授業アンケートの「授業の内容はよくわかる。授業は楽しい。」の項目では74.8%が肯定的な回答をしている。また「授業でわからないところについて、先生に質問しやすい。」では75.7%が肯定的な回答をしている。

取組内容③【施策5】

全国体力運動能力検査の結果はまだ返ってきていないが、体育授業でのグループ学習は昨年度よりも多く取り入れができている。しかし、タブレットによる体育授業は行うことができていない。

下半期・次年度への改善点**取組内容①【施策4】**

放課後や昼休みの学習サポートにより学習を進めている生徒もいるが、学習に主体的に取り組むことのできない生徒への学習支援が今後の課題である。

取組内容②【施策4】

習熟度別授業は現状ほぼ実施できていないが、TT (TeamTeaching) 授業は全学年の国数英で実施できている。指標を上回るために、他の教科についても協力し合いながら授業を進める。

取組内容③【施策5】

全国体力運動能力検査の結果をふまえて必ず次年度の保健体育授業に活かす。

タブレットによる体育授業を行うと「体を動かす」時間があまり取れず効率が悪いので次年度は検討は必要だと思う。

大阪市立大和川中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習者用端末を活用した家庭学習を週3回実施する。 <p>【教職員の働き方改革に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習用端末を活用した家庭学習を週3回以上実施する。 	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【施策6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の育成】 ICTを活用した授業づくり（次世代学校支援事業支援モデル校）</p> <p>指標：ICT活用によりわかりやすい授業づくりを展開し、チャレンジテスト（1,2年生）における正答率を大阪市平均に近づける。</p> <p>取組内容②【施策7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。</p> <p>指標：「仕事と生活の両立支援プラン」等も踏まえ、性別に関係なく教職員が働きやすい環境づくりを行う。</p> <p>取組内容③【施策8 生涯学習の支援】 子ども相談センター、警察機関、区役所（地域子育て支援）やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携を深め、相談活動を進める。また朝読をはじめ、読書文化の継承と更なる推進を図る。（図書館、図書紹介、読書感想）</p>	進捗状況 —
<p>指標：住吉区学警連絡会等と生徒の情報交換を行い、指導の方向性を確認する。</p> <p>校内での不登校生徒を減らし、暴力行為件数のゼロ件を継続する。全国学力・学習状況調査の「授業時間以外での1日あたりの読書時間30分以上」を令和3年度より10ポイント向上させる。</p>	B

年度目標や取組の進捗状況と分析

取組内容①【施策 6】

GIGA 端末を活用した授業つくりを学校全体として進めてはいるものの、いまだ新学習指導要領に準拠した授業がどの教科でも実践できているとは言い難いのが現状である。

また、目標としているチャレンジテストについては現段階で 1・2 年生の結果が出ていないため年度末反省時に総括する。

取組内容②【施策 7】

「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 および基準 2 を満たす教職員は全体の 66.7% であった。

取組内容③【施策 8 生涯学習の支援】

学警連絡会にて他校・警察・保護司・子相と情報交換し、校内でも共有している。

今年度は、学警後に生徒指導主事で集まり、各校の校則についても意見交換を行ってきた。

また、定期的にスクリーニング会議を実施することで区役所（子育て支援）と情報の共有をしている。

下半期・次年度への改善点

取組内容①【施策 6】

学校全体として GIGA 端末の活用・教育 DX の実践を共通認識し、実践する必要がある。

校内研修や企業研修を通じて意識の向上を図る。

取組内容②【施策 7】

「仕事と生活の両立支援プラン」等に沿い、教職員に健康に留意した働き方を今後も支援していく。ゆとりの日の促進や長期休暇での有休取得促進を行う。また日々の健康障害防止機能の確認をすすめるなど、声掛けや健康管理の意識向上を教職員全体で図る。

取組内容③【施策 8 生涯学習の支援】

学警の情報を、校内研修会等で活用していく。

巡視等、住吉区の中学校で連携する取り組みを実施していく。

令和4（2022）年度

運営に関する計画

- (1) 教務部
- (2) 各教科
 - ①国語科
 - ②社会科
 - ③数学科
 - ④理科
 - ⑤音楽科
 - ⑥美術科
 - ⑦保健体育科
 - ⑧技術・家庭科
 - ⑨英語科
- (3) 生活指導部
- (4) 健康整備部
- (5) 道徳委員会
- (6) 進路委員会
- (7) 教育課題検討委員会
- (8) 特別支援教育
- (9) ICT委員会

大阪市立大和川中学校

(1) 教務部

評価基準 A : 目標を上回って達成した
B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
①教務 教育活動を滞りなくおこなうことができるよう、教務作業を進める。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 年間行事、月中行事、時間割、補欠割り当て、日課表、テスト範囲、テスト計画、テスト監督表、問題解答保管、素点一覧管理、成績一覧管理、チャイム、出席統計、時数統計、転出入処理、生徒名簿作成、要録管理、教育実習、教科書、副読本、視聴覚、進路等についての作業 上記作業についての知識の伝達 	B
②校務 ICT 校務系仮想 PC 上の作業についての理解を深め、職員全体に共有する。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 校務 ICT システムの活用研究 必要な研修の実施 	B
③カリキュラム調整 教育課程と行事予定について調査と調整をおこなう。 学習指導要領に基づき、各教科の評価基準について調査と検討をおこなう。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 四半期ごとの時数確認 授業時数確保のための時間割調整 次年度評価基準の作成 	B
現状と分析	
① 教務作業を進めることができている。 ② センター等に問い合わせながらではあるが、SKIP などの校務系のシステムへの理解を深めている。 ③ 調査に基づき教科間での時間割変更を進めている。	
下半期・次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 知識を伝達するという観点については意識が希薄になりがちなため、後期は次年度に向けた作業の体制をとり、同じ作業を多くの職員ができる状況を作る。 児童生徒ボードの活用を通じた情報共有を進め、スクリーニングシートの作成等に活かす。 評価の研修の実施と次年度の評価基準作成を進める。 	

(2) 教科の重点① [国語]

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基礎学力の定着】漢字学習に重点的に取り組み、基礎学力の定着を図る。	A	
② 【言語力の育成】音読やスピーチ、作文の時間を年間10時間以上取り入れ、言葉の大切さや楽しさを学ぶ。	A	
③ 【個に応じた学習指導】提出物の完成を目指し、個に応じて提出を支援する。	B	B
④ 【自主学習習慣の定着】定期テスト前一週間は始業前や放課後等を活用して、自主学習を支援する場を提供する。	B	
⑤ 【習熟度別少人数授業の実施】分かりやすい授業につとめ、教材研究に力を入れる。	B	

現状と分析

- ①各学年、週末課題や単元テスト前において漢字プリント作成、小学校の漢字の復習も兼ねて取り組んだ。また、文法や語句の問題にも積極的に取り組み、基礎学力の定着をはかっている。
- ②定期テスト、単元テスト、また課題としてや、週末課題として作文指導を行っている。起承転結に成り立っての文章構成や、課題に添った文章作成など、生徒たちは前向きに取り組んでいる。3学年共に400字作文は書ききるよう指導を継続して行っている。
- ③漢字プリントの提出をはじめ、ワークやその他プリントの提出率は、上がってきている。ただ、なかなか完璧に仕上げることが難しい生徒もいるため、プリント作りの工夫をこらしながら、声掛けを継続的に行う。
- ④自主的に取り組める課題を配布。基礎学力の定着と共に、自ら考えやり遂げる生徒も増えてきた。図書室などの活用も、連携しながら前向きに取り組んでいく。
- ⑤引き続き、わかりやすい授業のため教材研究を継続していく。

下半期・次年度への改善点

- 日々の学習で身についた知識を、スピーチ等において、自分の言葉で表現ができるよう、今後も積極的に取り組んでいく。
- 提出物の提出率が80%以上になるよう、声掛けを引き続き行っていく。

(2) 教科の重点② [社会]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 授業準備・規律を徹底し、日々の学習習慣を育成するとともに、個別に最適な学習に取り組むことを目指す。	B
② 【発信力の育成】 班活動などのアクティブラーニングを通じ、自ら疑問について調べ、共有し、発信できる学習機会を授業の3割程度確保する。	B
③ 【習熟度に応じた学習指導】定期的に単元テストや小テストを実施し、その内容に合わせた補習や教材提供を行うことで、学年ごとの中央値上昇を目指す。	B
④ 【自主学習習慣の定着】すららドリルの活用や自主学習ノート、またプリント学習について、すべて自主提出とし、主体的に学習に取り組む習慣の育成を目指す。	B
⑤ 【情報活用能力の育成】GIGA端末を活用し、プレゼン作成や調べ学習、パフォーマンステストの場面で、ループリックに則した成果物が作成できているかを評価することで、情報活用能力の育成を図る。	A
現状と分析	
<p>① 授業規律を意識し、各学年ともに日々の学習を習慣づけすることに取り組んだ。</p> <p>② 目標数値通り、対話的な学習や調べ学習などの時間を確保できた。</p> <p>③ 一定期間での単元テストを実施する（再テスト受験を認める）ことで、中央値について上昇傾向がみられた。</p> <p>④ 学習成果物については基本的に自主提出を求めており、自主的に学習に取り組む姿勢については一定の効果があった。しかし、提出しない層へのアプローチなど今後に向けての改善点もある。</p> <p>⑤ 端末利用の頻度は多く、強化学習における基礎的な情報活用能力育成へのアプローチ法としてはまずまずの成果があった。今後、社会科だけでなく教科横断的に取り組んでいくべき課題であると認識している。</p>	
下半期・次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 今後も授業規律の徹底を目指す。また、板書や提出物についても計画的に行う。 主体的で対話的な深い学びに繋がるような授業形態を模索しながら、今後も授業作りを行う。 自主学習が定着することを目指し、今後も自主課題の提示を行うとともに課題内容も精選していく。 ICT活用に関して授業計画を練り直したうえで、教科において有効な利活用を再度検討する。 百問繚乱の結果を使って、適切な再テストや補習を行い、学力の向上を目指す。 	

(2) 教科の重点③ [数学]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 要点をまとめたものを別途用意し、より分かりやすく生徒へ提示することで効率の良い学習へ繋げる。	B
② 【言語力の育成】 ICT 機器などを活用し、協働的な学びを通じて数学的知識の定着を目指す。	B
③ 【個に応じた学習指導】 到達度別学習課題を作成し、個に応じた学習支援を行う。	B
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 基本的に毎時間課題を設定する。	B
⑤ 【習熟度別少人数授業の実施】 学習到達度に応じた習熟度 2 分割授業を適宜行う。	B
現状と分析	
① 要点をまとめたものを資料として配布し、問題に取り組みやすくした。 ② デジタル教科書や学習者用端末を使用し授業を行った。 ③ 小テストや再テストなどで放課後を利用し、到達度に応じて指導した。 ④ 家庭学習の機会を増やすように課題を設定した。また、ICT を用いた家庭学習課題を与えた。 ⑤ テスト前など、基礎を振り返るタイミングを設定し、2 分割授業を行うことができた。	
下半期・次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式の授業だけではなく、生徒たちが主体的対話的で深い学びが行えるような学習環境作りに工夫していく。グループワークの機会を増やし、誰一人取り残さない授業に近づけていく。 ・生徒用デジタル教科書の使用ができていないため、必要に応じて導入し、視覚的に学習できるようにしていく。 ・小テストなど、生徒たちが自分自身を振り返ることのできる機会を増やしていく。 	

(2) 教科の重点④ [理科]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
①【基礎学力の定着】 a. 毎時間の授業の目標と既習事項をはっきりさせる。 b. 基礎的な知識の小テストを小単元ごとに実施し、学力の底上げを目指す。	B
②【言語力の育成】 生徒の素朴概念を科学概念へと発展させる「発問」を工夫し、授業に組み入れ、発表やグループワークを行う。	B
③【個に応じた学習指導】 a. 必要に応じて補習を行い、個々の学習進度に対応する。 b. ICT、演示実験などの教材を工夫し、体験的な教材や生徒による観察・実験などを単元毎に実施する。	B
④【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 家庭において計画的に学習する習慣を身につけさせるため、ICT や問題集を活用する等して単元ごとに課題として提示し、確認する。	B

現状と分析

①a. 毎時間の授業の導入・終わりに既習事項の確認、本時の目標を提示している。 b. 各学年、各単元で小テスト、を実施している。
②理科室での取り組みやデジタル教材の活用により生徒の興味・関心を高め、発表や話し合いを行わせた。また、夏休みの自由研究のほか、様々な単元で発表の場を設けることで、一人一人が発表する機会を与えることができた。
③a. テスト結果を分析した上で、低学力の生徒や希望する生徒を対象に補習を行った。 b. 演示実験やデジタル教材を用いて指導を行っている。
④家庭学習習慣定着のために週末課題や単元ごとの課題を与え、提出させている。

下半期・次年度への改善点

・主体的・対話的な授業となるよう、様々な側面から発表の場を増やし、バリエーションに富んだ授業づくりをしていく。また、「なぜ」を考え追及していく姿勢が身に付くよう発問や授業形態についても研究していく。
・各授業の導入・内容・まとめの組み立て方をもう一度見直し、子どもたちの興味・関心を充実させる授業作りを行っていく。
・学力向上のためにテスト後の補習等を行ったが、十分な補習時間を確保することが難しく、補習内容やタイミングの精査を行い、効率的な学習になるよう検討していく必要がある。また、百問練習や外部テストを用いた分析を基に、弱点部分の補強を行い、基礎的な内容の反復学習を継続していく。

(2) 教科の重点⑤ [音楽]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】基礎学力を定着させるために、授業内で歌唱、器楽、鑑賞、プリント学習を行い、音楽の基礎的な学力や技術を身につける。	B
② 【言語力の育成】 言語活動の育成として、音楽に関する批評文を書かせ、音楽に対する思いや意図を言語で表現できるようにする。	B
③ 【個に応じた学習指導】歌唱を定期的に行い、読譜の苦手意識を克服できるようアドバイスを行う。全員が技術を習得出来るよう、声掛けを行う。	B
④ 【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 基本的な知識と技術の定着を図るため、長期休業中に課題をだし、家庭での練習習慣を身につけさせる。	B
⑤ 【規律、習慣付け】毎時間のワークシートや批評文を必ず提出させる。	B

現状と分析

① 【基礎学力の定着】教科書に記載されている基本的な音楽知識は3学年とも定着しつつあるが、それをうまく表現できる技術をつけることが課題である。
② 【言語力の育成】4月に比べ、知覚・感受したことなどをことばで表現することが少しづつではあるが上達してきた。自分が感じたことを恥ずかしがらずに発表する生徒も増えてきている。これが歌唱になるとできない生徒が多いため、歌唱に力を入れていきたい。
③ 【個に応じた学習指導】読譜を苦手とする生徒が多いため、創作活動・リコーダーでは机間指導を重点的に行った。
④ 【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 長期休業課題は、大和川チャンネルも活用しながらほぼ全員がしっかりと取り組めた。リコーダーを苦手とする生徒が多いので、個々に対応した指導が必要である。
⑤ 【規律、習慣付け】感じたことを言葉にすることを苦手とする生徒も少しづつ自分の言葉で書こうとする努力が見えてきた。

下半期・次年度への改善点

- ・1・2年生は合唱取り組みに時間をかけて取り組ませたい。
- ・タブレットを使用しての創作活動に興味を示す生徒が多いため、他の歌唱や器楽でも利用できるところは使っていきたい。
- ・器楽活動ではグループを組んで得意・苦手とする生徒が教え合い、共有できる場面を増やしていきたい。

(2) 教科の重点⑥ [美術]

美術の表現活動と鑑賞活動を通して、身近な生活の中にある美しいもの、価値のあるものを感じ取る感性を育み、よりよいものを探して自分なりの意味あるものとして表現していく態度の育成と準備力・創造力・集中力の定着を図る。

評価基準 A : 目標を上回って達成した
B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基礎学力の定着】各学年、1年間で作品を3点制作させる。計画的に作品づくりを行い、準備力・創造力・集中力の定着を図る。	B	
② 【言語力の育成】作品制作後のまとめや鑑賞レポートを作成させることで、美術的な感動を言語によって表現する力を養う。	B	
③ 【個に応じた学習指導】生徒1人に対し、2時間中に1回以上の助言や技術的指導を行い、制作中の作品に対するこだわりや悩みを細かく拾い上げる。	B	B
④ 【自主学習習慣の定着】作品制作を進める中で、生徒ごとに作品制作にかかる時間に時差が生じるため、各学年、各学期放課後の補習時間を設ける。	B	

現状と分析

- ① 授業時間の十分な確保によりコロナ禍より行えなかった学習も補填できている。
- ② 作品ごとにレポートやワークシートを作成し作品や作業の振り返りを行い言語表現する力の育成を行った。文化祭での作品発表もよい機会となつた。
- ③ 個々に異なる進度や悩みなどを拾い上げ解決するよう努めた。
- ④ 担任の先生などに協力を得て十分な補修の時間を設けた。

下半期・次年度への改善点

物理的な目標は達成できたが、校内アンケートで肯定的な解答が低いパーセンテージの部分を改善することを目標に、実技偏重にならず鑑賞等にも力を入れ美術を楽しむ力の育成をはかりたい。

(2) 教科の重点⑦ [保健体育]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 集団行動を徹底しておこなわせる。 各種目の特性やルールを理解させ、安全に学習を行う態度を身につけさせる。 毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。特に全身持久力と柔軟性が大阪市平均より劣るので、その能力を高める。	B
② 【言語力の育成】 生徒同士で励ましたり、教えたりできる学習環境を整え、積極的に声をかけあえる学習を取り入れる。 集団や自分に適した課題解決のために、学習カードなどを用いて解決方法を考えさせ、生徒たちの前で発表させる時間を1時間に1回以上つくる。	B
③ 【個に応じた学習指導】 習得技能に応じて課題を設定し学習に取り組ませる。	B
④ 【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 体育委員と班長を中心に準備運動や用具の準備、片付けなど積極的に行わせる。 体力の保持増進のために基本的生活習慣を身につけさせる。	B
⑤ 【体力向上の推進】 全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「シャトルラン」の項目を昨年度より2ポイント増加を目指す。（大阪市平均を上回る）	—
現状と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 1人1人が時間を守り、ルールを守ることによって集団行動が全学年できっちりできている。 上級生は、縦割り体育授業や体育大会取り組みにおいて、いつも以上の力を發揮しようと頑張る姿が多くみられ、1年生においては、上級生に必死についていこうと頑張る姿が見られた。 班活動を通してリーダーだけでなく、1人1人が発言する機会や、ワークシートで自分の考えを記入する機会を昨年度より多く取ったことにより、子どもたちの達成感や充実感は上がったように感じる。 保健領域で、心身の成長や健康について理解を深めさせることで、自らの健康を管理する意識が高まっている。 全国体力・運動能力テストの結果がまだ返ってきていないので、ポイント増加の有無はわからない。 	
下半期・次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 各学年、ほとんどの生徒が意欲気に活動することができており、授業を乱したりマイナスな発言をする生徒はほとんどいない。しかし、無気力な生徒があり、周りが気を使って遠慮してしまう空間ができてしまうことがあるので注意して授業を行っていきたい。 あらかじめ決められた班長、副班長だけでなくその他の生徒にも何か役割を明確に与えたりすることで任せにしない集団づくりを目指す。 体力テストの結果を分析して次年度の授業について考える。 	

2) 教科の重点⑧ [技術・家庭]

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 定期的な小テストを2回以上実施し、平均正答率を70%以上にする。 振り返りのできるワークシートを活用し、知識の定着を図る。	B
② 【言語力の育成】 実習レポートまたは発表に年間3回以上取り組み、課題を解決するための考え方や工夫を書かせることによって、言語力の育成を図る。	B
③ 【個に応じた学習指導】 実習時の新端末を取り入れた授業展開、生徒の様子を見ながら声掛け等を行う。 定期的な班活動、必要に応じて補習を行う。	B
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 長期休暇中に課題を設定して、自主的な学習習慣の定着を図る。	B
現状と分析	
<p>①定期的に小テストや課題を設け、主体的に理解しようとする生徒も増え知識の定着につながっている。振り返りシートでは、学習した内容の振り返りと、生活の中で活かしていくようにへと創造していく記述がみられ、興味や関心、生徒の様子などを見ることができている。</p> <p>②それぞれの考え方を生徒自身の伝え方で発信できている。課題に対しての振り返りも行わせることで次回に向けての改善点も見いだせている。</p> <p>③題材に応じて新端末を活用、班活動も行えた。</p> <p>④長期休暇ではそれぞれの分野で自主製作を行い、興味関心のきっかけづくりができた。課題も適宜設定し取り組めている。</p>	
下半期・次年度への改善点	
<p>①小テストを取り入れることで生徒の主体性や理解力に変化があった。今後は題材ごとに2回以上は取り組んでいきたい。振り返りシートは毎授業で今後も継続していく。</p> <p>②自分の思いや気づきを書かせる力と、今後は発表する取り組みを設け、声に出して伝える力を養っていきたい。</p> <p>③端末を活用した授業展開の中では、指導を要する事案もあったため、実践するだけではなく、活動のなかで学びが途切れない展開を考えていく必要性がある。</p> <p>④課題の頻度が少なかったと感じるため、今後は家庭でも活かせる（実践できる）取り組みを考え、さらなる知識の定着と学習習慣を身につけさせたい。</p>	

(2) 教科の重点⑨ [英語]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】授業の「基礎・基本」にあたる内容の確認を目的とした単元テストを定期的に行い、再テストで知識の定着をはかる。	B
② 【言語力の育成】英語によるアウトプットが多く取り入れられた授業を行うと共に、C-NET での Team Teaching による授業を年間 15 時間以上実施する。	B
③ 【個に応じた学習指導】個々の学習進度に対応するため、すららドリルを活用し、個別に理解度の把握に努める。また放課後に学習会を行いボトムアップを目指す。	B
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題の提示及び自学自習の確立への取組】すららドリルやプリントなどの課題を与え、授業内においてその課題への取り組みを確認する。取り組みが不十分な生徒に対する指導を行う。	B
⑤ 【小中連携】遠里小野小学校、山之内小学校の小学 5・6 年生に週 1～2 回、英語の授業を行い、小中連携を進めている。	A
現状と分析	
<p>① 単元テストを取り入れ、単元ごとに理解度の確認を行うことができた。再テストも意欲的に取り組む生徒も増えてきた。</p> <p>② C-NET での Team Teaching による授業は、英語によるやりとりや発表をおこないアウトプットを多く取り入れた授業を行うことができている。</p> <p>③ 放課後の学習会を行い、個の応じた学習を支援した。</p> <p>④ 課題によって、生徒の家庭学習が定着し、自学自習が確立してきている。</p> <p>⑤ 遠里小野小学校、山之内小学校へ週 1～2 回授業を行い、小中連携を進めている。</p>	
下半期・次年度への改善点	
<p>① 単元ごとにテストを行い、再テストをすることできさらに基礎の定着を目指す。</p> <p>② C-NET との授業ではより実践的な会話表現を取り入れながら、話すことをメインに授業を展開していく。</p> <p>③ ④ 放課後の学習会等の時間もさらに増やし、下半期に向けて基礎基本の復習を含めボトムアップを目指す。また、英検では第 2 回でも多くの生徒が 3 級以上に挑戦しているので、英検対策を行いさらなる合格率アップを目指す。</p>	

(3) 生活指導部

評価基準 A : 目標を上回って達成した
B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
学力向上 ④【 小中一貫教育の推進 】 9年間を通して、めざす子ども像「場に応じたあいさつがしっかりできる児童・生徒を育てる」を目標に、教育内容を充実させる。	B
指標 連携行事（中1情報交換、体験学習、部活動体験学習）実施 教職員研修（道徳、ピア・サポート、メンター研修等） 2回 教員相互授業参観の実施 3回	
道徳心 社会性の育成 ②【 規範意識の向上 】 ・「言葉づかいは心づかい」「元気よく・気持ちよく、あいさつしよう」の実践。身だしなみを整え、生徒自らに『時間を守る』姿勢を身につけさせる。 ・体罰根絶への指導体制を確立させ、生徒理解を深める研修会および相談活動の実施	
指標 登校遅刻ゼロの達成 チャイム着席の定着 正しい服装の着こなしの徹底 生徒会中心による「学校生活充実のための討論会」の実施 生徒理解を深める「生徒指導研修会」実施 5月 生徒理解を深める「教育相談活動」 年2回 随時 体罰ゼロの教育活動を推進する	B
道徳心 社会性の育成 ④【 防災教育の推進 】 「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。防災減災マニュアルを策定する。	B
指標 火災、震災訓練の実施。地域別の防災訓練。下校訓練。	
道徳心 社会性の育成 ⑤【 不登校傾向生徒への対応 】 ・生徒の状況把握を図り、全教職員で共通理解し、個別の具体的な手立てを講じる。日常的にカウンセリングを行い、生徒の心の変化を早期に把握する。 ・生徒指導担当者を活用した、心のケアが必要な生徒への別室対応の充実	
指標 週1回 不登校傾向生徒の状況把握。改善方針の確認。 月1回 全教職員と状況把握。 カウンセリング週間の実施(年2回) 心のケアが必要な生徒の学校生活保障	B
健康 体力の保持増進 ③【 健康に関する指導の推進 】 発達段階に応じた健康に関する指導を系統的に行う。	
指標 学級活動、保健体育、総合の時間を活用して、薬物、飲酒、喫煙に関する学習会を行う。(全学年3回)(外部指導者を含む)	B

現状と分析

コロナ禍で行事の縮小を余儀なくされたが、例年と大きく変わることなく取り組みを実現することができている。

大きな指導案件は起きていないが、学校生活、特に授業規律に関しては再度、教職員で共有していく必要がある。

学校外トラブルに置いては、今後も外部機関と連携しながら注意していく必要がある。

不登校生や登校後の入室が難しい生徒などへの対応なども引き続き、チャレンジルームや区役所とも連携を取りながら継続していく。

また、学警連絡会の内容を全体共有する取り組みは今年度も引き続き行っている。

下半期・次年度への改善点

現状分析にもあるように、大きな生活指導の案件は減少傾向にあるが、小さなトラブルが増えてきている。生徒の学校や授業への慣れから起きている事案もあるため、授業規律・黙想・黙食・黙働清掃など、日々の活動での「凡事徹底」を全職員で共通して意識する必要がある。

(4) 健康整備部

評価基準 A : 目標を上回って達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 健康・体力の保持増進 食に関する知識と食習慣を身につけるための教育活動を進める。	B
指標 食育通信の発行 8回 小中連携した食育推進連絡を行う。（年2回） 長期休業中、食育調査を行う。	B
② 学校・家庭・地域の連携 学校・家庭・地域の繋がりを深めるために各関係諸機関と取り組みを進める。	B
指標 救急救命法（AEDを含む）の講話を年一回実施する。 学校保健委員会の活動に参加する。	B
③ 感染症対策 免疫力を高めるために、基本的生活習慣を身につけさせる。 消毒作業の徹底、学習環境を整える。	A
指標 学年集会等で啓発活動を行う。 登校時の健康観察結果の確認、記録簿を管理し情報共有する。 1日1回以上消毒する場所と使用状況に応じて消毒する場所を分けてチェックリストに記録・管理する。	A
現状と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 毎月、保健だよりと一緒に食育通信を発行し 11月現在 7号を発行している。 小中連携した食育推進連絡を行った。 長期休暇中に家庭科と区役所と連携して、朝食を自炊する取り組みを行った。 美化委員が集会等で感染症対策の啓発運動を行っている。 毎日登校時に健康観察表で健康チェックをし、記録管理している。 毎日消毒作業を徹底して行い、チェックリストに記録し、管理している。 	
下半期・次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 区役所・家庭科と連携した食育の取り組みについて、今後食育展に出展する予定。 感染症対策の啓発運動、消毒作業、健康観察表での健康チェックを継続していく。 地域清掃についてはコロナ禍においても 1・2年生で取り組めたので、次年度は全学年で取り組むことを検討していく。 大阪市立大学と連携して食生活のアンケートを実施したので、分析結果を今後の指導に活かす。 消防署と連携した救急救命講習が実現できた。次年度も継続していく。 	

(5) 道徳委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した
B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
道徳心・社会性の育成 ①【 道徳教育の推進 】 道徳委員会を中心に年間指導計画を作成する。 生徒一人ひとりに、「自分の生き方を見つめ直し、多角的・多面的に物事を考えられる生き方ができるようにしていく」という課題設定で実践を行う。	B
指標 ①道徳授業(年間35時間の実践) ②原則、教科書による授業を実践し、授業終了後、生徒に感想シートを書かせることにより、生徒の理解度を把握する。 ③校内新転任道徳研修会実施	
現状と分析	
①年間計画に沿って、各学年、道徳授業を行った。 ②原則、教科書による授業を実践できており、感想シートも生徒に書かせ、心情が把握できている。時間が余れば、感想を発表させ、クラスの中で意見を共有させている。また、導入で最初に、映像や写真で時代背景などを視覚的に見せることにより、読み物資料に入り込みやすく、主題を深く考えることができるよう工夫をしている。 ③4月に校内新転任道徳研修を実施、7月に道徳研究授業を実施することにより、よりよい道徳授業の構成を考えるきっかけ作りを行った。	
下半期・次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> どの教員が授業を行っても、大阪市の推奨する「気づき1」から考えを深め、「気づき2」で子どもたちが自分の考えを発展させられるよう、しっかり教材研究を行える体制を整える。 道徳委員会が中心となって、よりよい授業を模索し、推進していく。 	

(6) 進路委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
道徳心・社会性の育成 ③【キャリア教育の推進】 キャリア教育年間計画に沿って、系統立てた教育内容を推進する。	B
指標 職業講話（1年）職業体験（2年）高校出前授業体験（3年）	
現状と分析	
1年生 5月には、自分の適性・向いている職業を知り、将来の夢や希望を考えるきっかけづくりとした。7月には様々な職業が存在することを知るためのグループワークを行い、夏季休業中には職業調べを通じてさらに関心を高めるようにした。今後、1月の職業講話も活用して様々な職業についての理解と関心を深めていく。	
2年生 7月に職業講話にて職業について学んだ。事前・事後のグループワークを通し、多くの職業の話を共有することで職業に対する関心を深めた。12月には職業体験を予定しており、実際に現場で働く体験を通して、仕事や働くこと、社会について理解を深め、自分の進路・将来について考える機会とする。	
3年生 7月に高校による出前授業を行い、進路への関心を高める機会になった。校長面談を通して、自分と向き合い、進路を考えるきっかけとなった。11月後半には興國高校に面接講座をしていただく予定にしている。	
下半期・次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ◇引き続き、感染対策をしっかりと行いながら、外部講師による講話や体験などを有効に活用していく。 ◇職業講話の講師などの外部講師については、どの学年でも依頼しやすいような大和川中学校独自の人材バンク、人材の蓄積が必要である。 ◇コロナの影響で、社会全体の状況だけでなく、職業体験については特に個々の事業所の感染状況によって直前に実施不可になる可能性もあり、体験や講話等が実施できない場合の代案を考えておく必要がある。 ◇「キャリアパスポート」については、各学期の節目に振り返りを行い、それを次に活かしていくよう、引き続き活用を図っていく。 	

(7) 教育課題検討委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
課題の把握と解決 ・学校の現状を把握するとともに課題を検討し、それらの解決に向けて取り組む。	
指標 週1回の主任会 生徒および教職員アンケートの実施 カリキュラムの編成 年間行事予定作成に向けた検討	B
現状と分析	
現状や課題の把握、検討をおこない、学年や各部、各委員会でそれぞれ取り組むことができる。	
下半期・次年度への改善点	
アンケートをもとに今年度の反省をおこない、次年度のカリキュラム編成、年間行事の作成に生かす。	

(8) 特別支援教育の重点

目標：社会的な自立能力向上のため、各関係機関との連携をより強化し、「個別の教育支援・指導計画」をさらに充実させ、時間割もより一層工夫したい。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【個に応じた学習指導・基礎学力の定着】 生徒一人一人の障がいや発達段階、学力に応じた学習課題を厳選して設定し、それらを毎時間見直して、基礎的な知識・理解・技能等を伸ばし、生活に活かせる力をつける。	B
② 【基本的生活習慣の確立・健康な生活習慣】 基本的な生活習慣と生活態度をより一層育て、健康で楽しい学校生活が安心して送れるようにする。	B
③ 【社会参加促進】 集団活動に参加しようとする意欲を養い、好ましい人間関係を育てる。	B
④ 【個別の教育支援・指導計画について】 保護者の100%参画を促し、計画の内容について保護者の意見を十分に聞いて計画する。「個別の指導計画」に基づく指導を実施し、中間評価・最終評価を行う。 スキップでの「個別指導の記録」の内容を充実させ、それらを全教職員で共有し、個別の支援・指導に活かす。	B
⑤ 【情報共有について】 職員会議、必要時は特別支援教育委員会を行い、毎月1回の情報交換をする。全教職員への障がいに対する知識・理解の促進、啓発を行っていく。	B
結果と分析	
① 生徒個々の能力に応じた支援・指導で、学校生活における基本的生活習慣・態度が養われ、登校できなかった生徒も、少しづつ登校し定期テストを受けられるようになってきた。 ② ③ 泊を伴う校外活動や体育大会や文化発表会などの学校行事を経験することで、通常学級の生徒とも関わる機会があり、仲間と協力して自分らしさを發揮することができ、自立へ向けて成長できた。 ④ 「個別指導の記録」を策定し全職員に公開し、特別支援学級からの情報発信を行うことができなかった。	
下半期への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間割を工夫し、個別に対応できる時間を多く作り、基礎学力の定着を図っていきたい。 ・ 通常学級担任・保護者や関係諸機関との連携を図り、長欠生徒や教室に入れない生徒に対しては、一緒に改善策を検討し、粘り強く対応していきたい。 ・ 校務支援パソコンを活用し、個別の支援・指導情報を閲覧することで全職員が共通理解を行う。 	

(9) ICT 委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①ICT 活用の推進 ・新しい機器やソフトが滞りなく導入できるように、必要な研修を適宜行う。 ・ICT 活用の研究を行う。	A	B
指標 ICT 研修の実施、ICT 活用能力の向上		
②機器管理 ・管理台帳の作成と機器の保守点検を行う。	C	
指標 機器管理台帳の更新、運用		
現状と分析		
①必要な研修を行うことができており、新機能の導入に合わせて、研修を行う予定である。 ②機器と使用者との紐づけを進めているところである。運用できているとは言い難い。また、学習者用端末の不具合等も併せて確認を行っていく。		
下半期・次年度への改善点		
①授業内外での ICT の活用についての研究を進めるとともに研修への参加や他校との情報交換を通して、学校全体で ICT 活用能力のより一層の向上を目指す。 ②必要な機器は回収し、管理できる環境を整えていく。また、管理台帳の再確認も行っていく。		